

2016年5月12日

滋賀新工場にターボ関連部品専用ラインを構築します。

当社は、この度、大手自動車メーカーより、ターボロータへの過給圧を制御する部品であるウェイトゲートバルブ用金型及び試作品供給を正式受注したことを受け、最新鋭の射出成形機、真空焼結炉を新工場に効率よく配した新ラインを設置致します。

従来のウェイトゲートバルブはロストワックス（精密鑄造）によるステンレス素材が主流となっておりました。今後は更なる高温化の中で、ロータ一部同様、周辺パーツにも耐熱強度に優れたニッケル基超合金への変更ニーズが高まって参ります。

P I M工法は設計自由度に優れ、高精度などの利点から、ニッケル基超合金の焼結技術を既に確立した当社に製品開発の正式依頼を受けることとなりました。

今後は、数ヶ月に渡る試作品の供給を繰り返しながら、当該の新車種への正式採用を目指し、取り組んで参ります。今後のターボ搭載車においては、更なるターボラグの改善、高回転化に伴う高温化など新素材、新形状のニーズが高まってくると予想されます。当社P I M工法は、ロストワックスでは解決不可能であった精度、新たな素材の採用など、今後もお客様のニーズに対応した、技術開発力、量産技術確立に努めて参ります。

以上